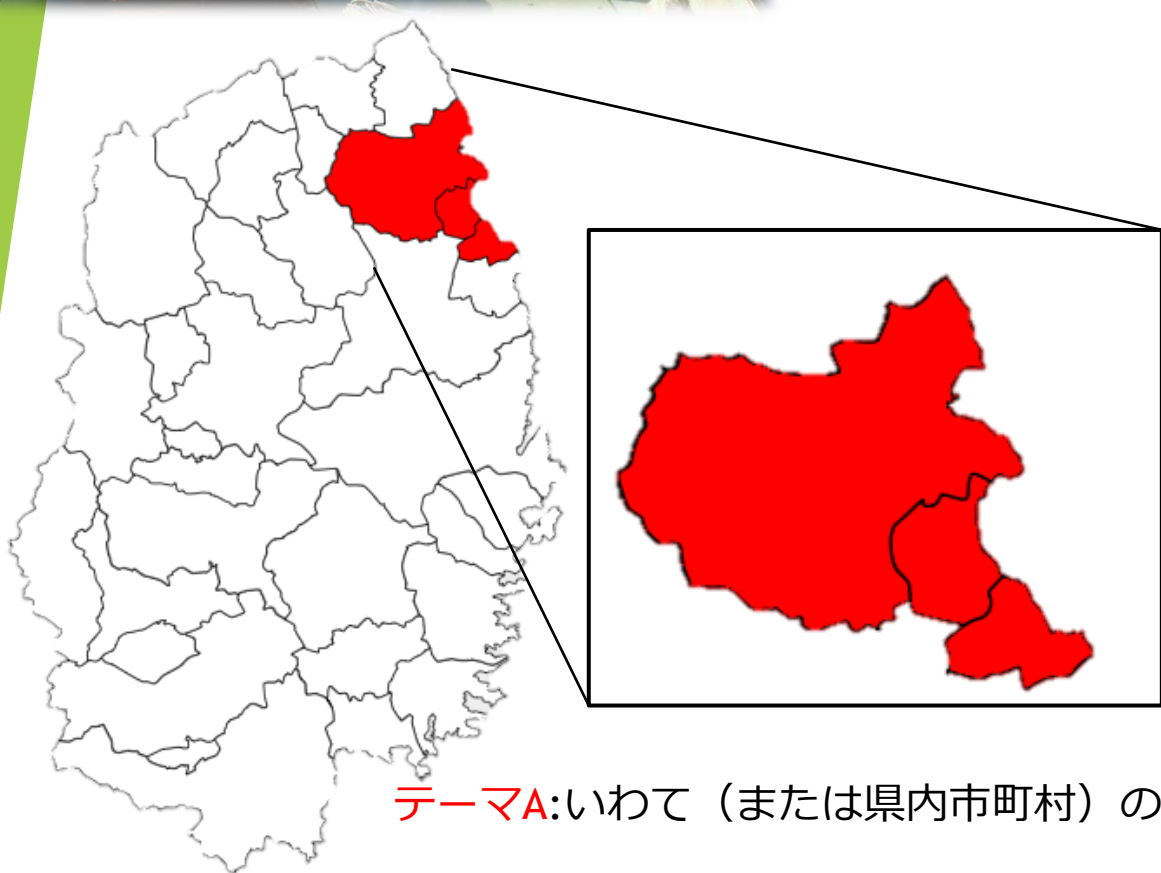
漁業インターンシップ＆ホームステイ
～１校１地区１漁港プラン～
（久慈市、野田村、普代村を例として）

盛岡中央高校 2年 SZ組
内野澤 安紀　（岩手県野田村出身）

テーマA:いわて（または県内市町村）の地域経済を○○産業で元気にする

①　現状　（久慈市、野田村、普代村の例）

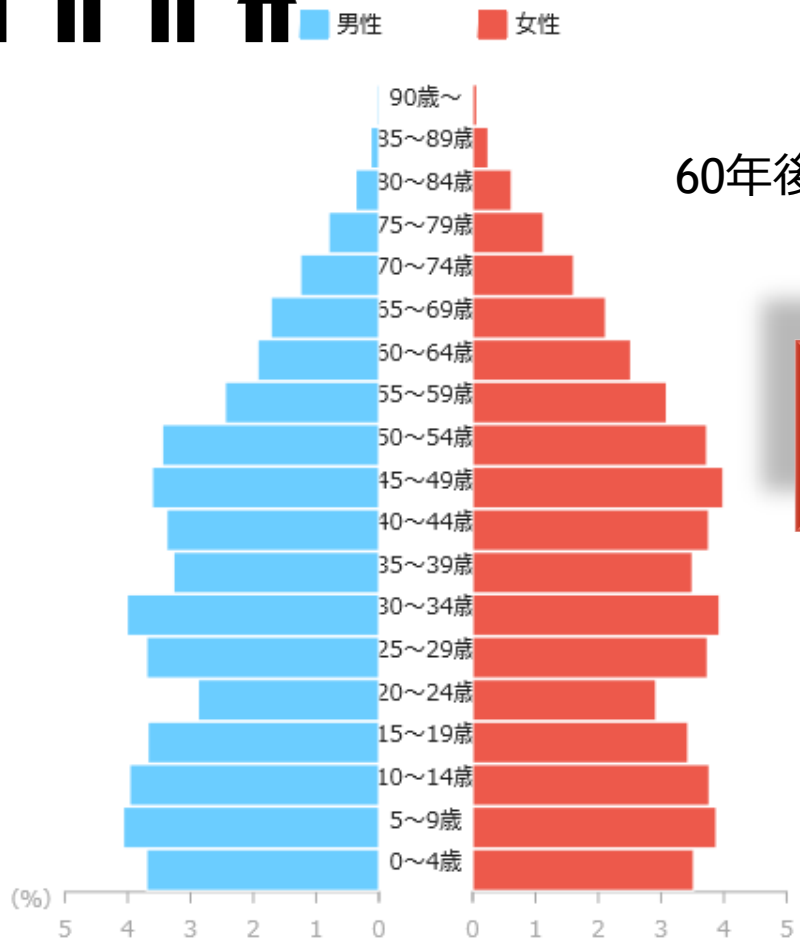
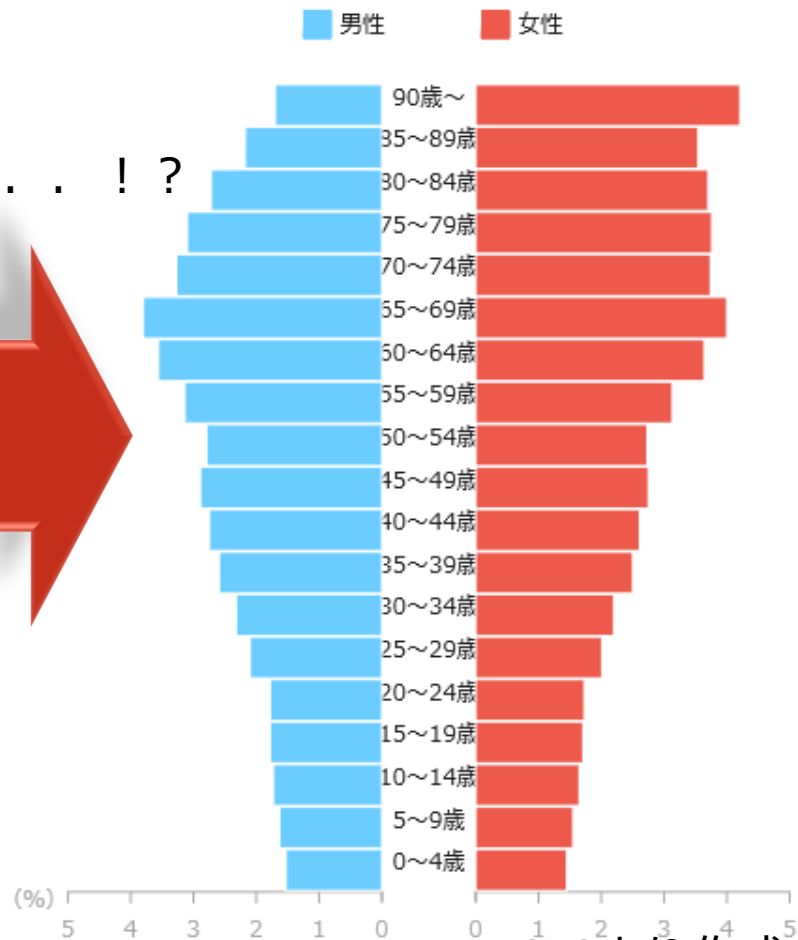
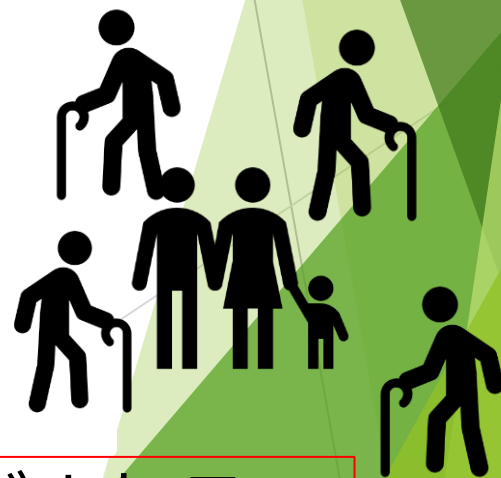
- 漁業従事者は、震災以降激減しているという事実

RESAS より作成

漁業の担い手が減少

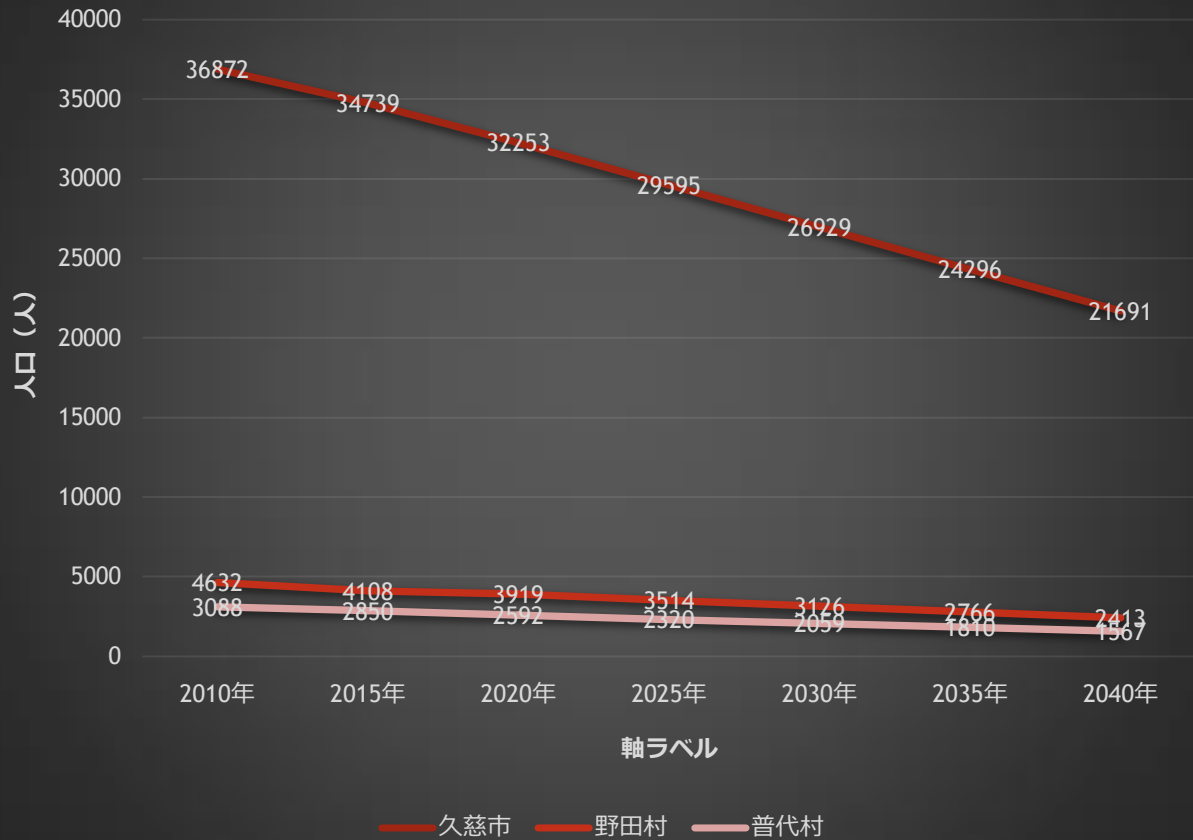
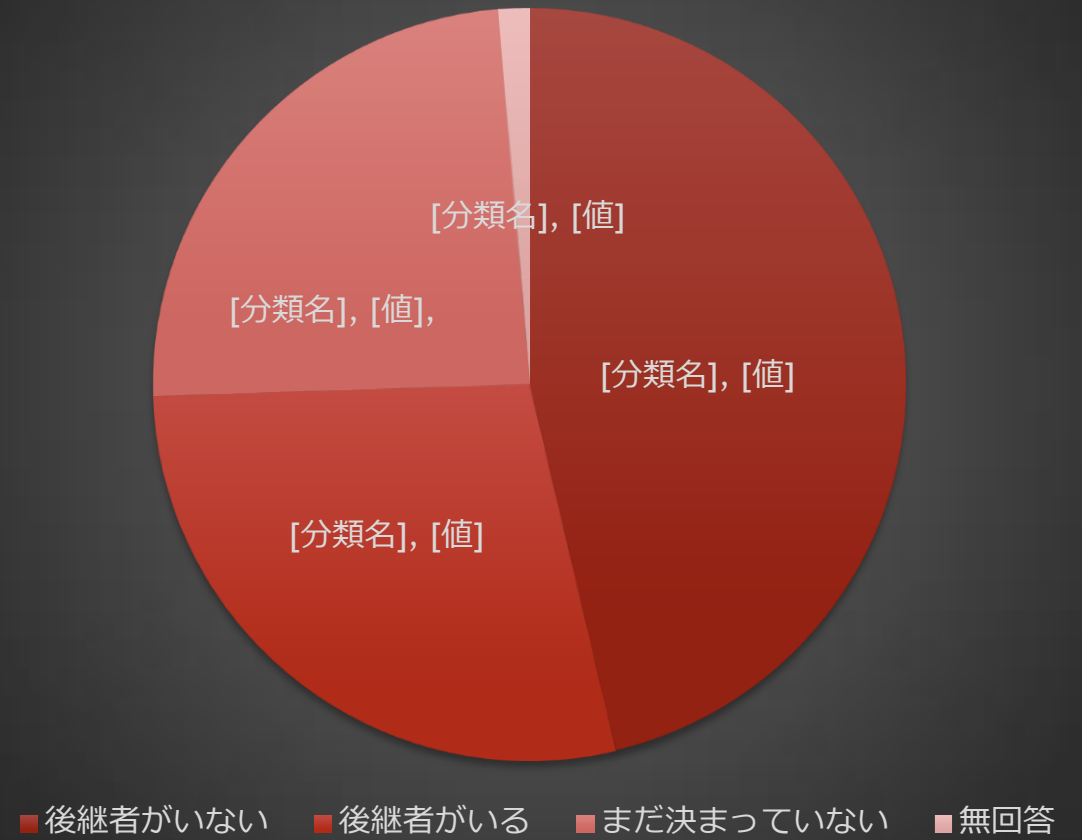
②　私の父の話

（岩手県野田村の下安家漁港で漁業に従事。
主に養殖を中心として、わかめ、ほたて、こんぶなどを育てている。）

- 実際のところ、組合員が減少すると、
- 組織を維持することが困難になる。
- 働き手の減少は、喫緊の課題だ。
- 特に、元気で力のある若手が減っては困る。

漁業以前に、このままでは**自治体の存続**すら危ぶまれる

人口の減少

軸ラベル	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
久慈市	36872	34739	32253	29595	26929	24296	21691
野田村	4632	4108	3919	3514	3126	2766	2413
普代村	3088	2850	2592	2320	2059	1810	1567

人口（人）

RESAS　より作成、パターン２をもとにした

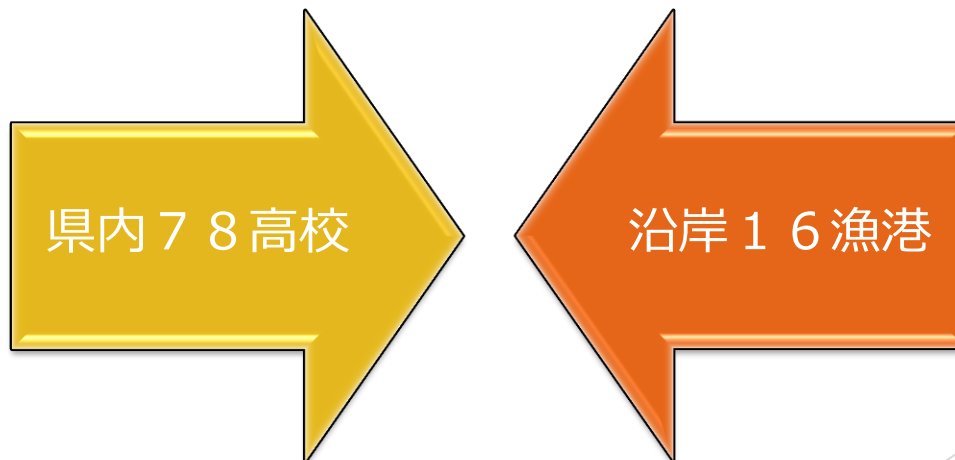
平成２１年　農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査 より作成

[人口の減少] ＋ [後継者不足]

の 二重苦状態

④　解決策

漁業インターンシップ ＆ ホームステイ
～１校１地区１漁港プラン～

- １つの高校から２名を、久慈市、野田村、普代村に存在する計１６漁港に振り分け派遣
- １週間２人ペアで就業体験
- 漁師の家庭にホームステイし、あたかも漁師の家庭に生まれたかのように生活する

RESASやそのほかのデータから考える、漁業の現実＆理想

現実

- ✓ 漁師の高齢化 港から活気が消える
- ✓ 後継者がいない 廃業する漁師が増える

理想

- ✓ 漁業を幅広く知ってもらい、より身近な職業へ
- ✓ 震災以前よりも活気のあるまちへ

⑤　得られるメリット

ひと	生徒にとって	• 普段とは一味も二味も違った環境で生活できる • 大学・企業に志望する際の調査書や面接に使える
まち	被災地にとって	• 沿岸のよさを高校生に知ってもらえる • 美味しい食べ物や特産品を知ってもらうことで宣伝になる
しごと	漁師にとって	• 高校生から刺激を受けて、仕事の意欲が増す • 高校生が漁業に興味を持ってくれる

まち・ひと・しごと

３つの方面でメリットが存在する！

現在、2020年東京オリンピックに向けて、民泊への注目が高まっている

民間の団体とも協力し、多くのひと、多くの地域を巻き込む！

〔例〕　野田村大学

皆さんは野田村で学ぶ、そして野田村は皆さんから様々なことを学ぶ。
教え、教えられることによって、コミュニティや後継者問題などが震災後顕著化しているこの村の未来に一筋の光が差し始める、そんなプロジェクトです。

（野田村大学　HPより）

⑥　これからの時代、世代へ向けて

このプランを、他の市町村へ、他の業種へ！

- そもそもインターンシップは、第三次産業が中心で、第一次産業ではあまり例がない。
- ホームステイも、海外に語学研修に行く際にお世話になるようなもの。国内でのホームステイは、先例が少ない。
- 私が今までに体験したものでは、「就業体験」と銘打っておきながら、ほとんどが「見学学習」だった。ただ見て終わり。期間も半日程度。意味がない。

まずは狭い地域（久慈市、野田村、普代村を中心）でこのプランの成功例を作る

他の産業（製造業、農業）や、県内の市町村にも波及させる

高校生と大人が一体となったインターンシップ・イノベーションの実現を